

## 令和5年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

校訓「英知・至誠」に基づき、新しい時代を担う英知と、豊かな人間性・創造性・社会性を身につけ、自ら学び、自ら考え、自ら鍛錬し、それに基づいて自ら誠実に行動することができる人を育成し、地域に愛される学校をめざす

## 2 中期的目標

- 1 授業改善と授業力向上に取組み、「確かな学力」を身につけ、夢を実現する力を育成する教育活動
  - (1) 組織的に授業力向上と改善に取組み「主体的、対話的で深い学び」の授業を実践し、生徒の学力を向上させる。
    - ア 「学び合い、学び続ける生徒の育成」のため、全教員で「主体的、対話的で深い学び」の授業を行う
    - イ 授業満足度の向上と、わかりやすい授業のため、全教員がICTを活用した授業を積極的に取り入れる
 ※ 生徒「進路実現のための学力向上満足度」を向上させる [R02;60.2% R03;67.4% R04 ; 74.3%⇒令和7年度;80%]
  - (2) 3か年を見通した進路指導計画、生き方に関する学習機会を提供し、主体的かつ積極的に社会に参加する力を育成し、満足度の高い進路を実現する。
 ※ 生徒、保護者「進路指導に関する項目の満足度」を向上させる [R02;78.4%、75.3% R03;80.4%、69.1% R04 ; 86.2、84.8⇒令和7年度;90%、85%]
 ※ 学校紹介による就職内定率 [R02 ; 100% R03 ; 100% R04 ; 100%⇒令和7年度 100%維持]
  - (3) 講習・補習・外部模試の計画的な実施と、体系的なキャリア教育の推進により、大学進学希望者の目標・夢を実現させる。
 ※ 国公立・関関同立・産近甲龍・摂神追桃・外（関西・京都）合格者数を増加させる [R02;14人 R03;16人 R04 ; 78人⇒令和7年度;85人]
  - (4) 英語教育の充実を図るとともに、様々な検定試験を実施し、生徒のコミュニケーション能力と進路意識の向上に取り組む。
    - ア 講習、資格試験の受験指導、外部行事への参加などにより、英語教育を充実させる
    - イ 英検、漢検、数検など様々な資格試験を1年次より実施し、進路意識と自己肯定感の向上に取り組む。
 ※ 英検等の外部資格の受験者数を増加させる [英検 R02;98人 R03;150人 R04 ; 80人⇒令和7年度;150人]
- 2 自律心を高める生徒指導と地域と連携した教育活動と魅力ある特別活動に取組み、地域・保護者に信頼される学校づくり
  - (1) 自律を促す指導を粘り強く行い、生徒の規範意識を醸成するとともに、教育相談体制や生徒支援体制の満足度を向上させる。
 ※ 生徒「学校の規則を、きっちり守っている」を維持する [R02;85.5% R03;94.6% R04 ; 96.2%⇒令和7年度;高い肯定率維持]
 ※ 生徒「教育相談に関する満足度」を向上させる [R02;68.7% R03;72.1% R04 ; 87.1%⇒令和7年度;90%]
  - (2) 生徒の自己有用感を醸成し、帰属意識を高め、安心できる人間関係を構築するため特別活動（行事、部活動等）を充実させ、学校満足度を向上する。
 ※ 生徒「学校行事に積極的に参加している」を維持、向上させる [R02;79.8% R03;88.9% R04 ; 89.5%⇒令和7年度;90%]
  - (3) 保護者及び地域との連携した活動を推進するとともに、学校ホームページや学習支援クラウドサービスにより学校の情報発信を行う。
 ※ 保護者「子どもは楽しそうに学校生活を送っている」を維持する [R02;82.0% R03;79.0% R04 ; 87.3%⇒令和7年度;85%以上を維持]
 ※ 保護者「学校は家庭との意思疎通を十分に行っている」、「HPを見て情報を得ている」を向上させる [R02;73.5%、59.6% R03;78.5%、59.2% R04 ; 87.0%、58.9%⇒令和7年度 85%、65%]
 ※ 「地域との連携を推進する生徒参加の取組み」を定着させる [R02・03;コロナ禍のため実施できず R04 ; 90人⇒令和7年度;100人]
- 3 人権尊重の教育を推進するとともに、「ともに学びともに育つ」教育の実践により、すべての生徒に安全・安心な教育環境の構築
  - (1) 共生推進教室を組織的な校内体制で推進するとともに、障がいのある生徒の自立を支援する。
    - ア 共生推進教室での充実した自立活動の取組みと職場実習の実施により、生徒全員の進路実現
    - イ 障がい者理解教育研修を推進し、すべての教職員が共生推進教室の取組みに関わる
 ※ 進路実現 [R02 ; 100% R03 ; 100% R04 ; 100%⇒令和7年度 100%維持]
  - (2) 教職員の人権教育等の研修を定期的実施するとともに、生徒への人権教育を推進する。
 ※ 障がい者理解教育研修を含む教職員向け年3回の人権研修を実施し、研修への肯定率を向上させる [R02; 1回、66.0% R03; 2回、75.0% R04 ; 2回 85.4%⇒令和7年度; 3回、85%]
 ※ 生徒「人権等の学習機会がある」を向上させる [R02;74.3% R03;80.4% R04 ; 84.0%⇒令和7年度;85%]
- 4 校務の効率化と働き方改革の推進
  - (1) 学校経営計画推進に向け各組織のリーダーのマネジメント能力を向上させ、学校経営に教職員が参画するPDCAサイクルを推進する。
 ※ 教職員「学校運営に教職員の意見が反映されている」を向上させる [R02;55.6% R03;58.3% R04 ; 58.3%⇒令和7年度 65%]
 ※ 教職員「職員会議に至る各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している」を向上させる [R02;53.7% R03;52.1% R04 ; 47.9%⇒令和7年度 60%]
  - (2) 校内体制並びに業務の見直しと改善・効率化を図る。
 ※ 教職員「各分掌・学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」を向上させる [R02;53.7% R03;42.8% R04 ; 50.0%⇒令和7年度 60%]
 ※ 80時間/月以上の超過勤務者を毎年前年比20%減少させる [R03 ; 18件 R04 ; 21件⇒令和7年度 11件未満]

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和5年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>[生徒] 回収率81% (昨年度85%)</p> <p>・数字が大きく減少した(88.6⇒73.6)設問13「学校で火災や地震などの災害が起こった場合、避難経路など、どのような行動をとれば良いか、知らされている。」については、10月実施予定であった避難訓練が11月下旬に順延となり、本アンケートの実施が先となった。このため1年生の数字(58.8)が2年生(80.7)・3年生(81.3)と乖離した結果となった。</p>	<p>[第1回目 7月5日]</p> <p>○働き方改革について</p> <p>・「校務の効率化と働き方改革の推進」の重点目標に「各組織のリーダーのマネジメント能力を向上させ」とあるが、これは教員の意識改革の問題であって効率化ではないのではないか。</p> <p>・残業を会社全体で無くすとしても、社員一人ひとりの心身の健康やそれが全体に還</p>

避難訓練では例年、全体訓練後に1年生が残り、消防より消火器の使用方法を学び、代表生徒が水消火器の使用を実践している。

・それ以外は概ね前年度と同数字であるが、特に向上しているのが設問6「人権や命の大切さ、社会のルールについて学ぶ機会がある。」(84.0⇒92.7)、設問8「学校は1人1台端末を効果的に活用している。」(81.9⇒88.9)の2点である。

・設問6については「あすチャレ!スクール」プログラムを活用したパラアスリートとの体験プログラムが定着してきたこと、毎年様々なテーマを設定(今年度は「LGBTとジェンダー・セクシャリティを巡る人権課題」について)し、外部の有識者を招いた講演会を実施していること、それら以外にも機会があれば、折に触れて教育する機会があった成果と思われる。また、SNSの使用については生徒へ話を増やしている。

・設問8については1人1台端末の効果的な活用について、定期的な教員研修や相互授業見学、研究授業を行っていることも要因となっていると考えられる。

[保護者] 回収率 45% (昨年度 21%)

・昨年度より、フォーム作成ツールでの回答を依頼している。回収率が大幅に増加した背景に、このようなICTツールを活用したさまざまな取り組みが一定浸透してきていることが読み取れる。引き続き、全員回答いただけるよう丁寧に依頼していきたい。

・本校の教育活動において、保護者の皆様は概ね7～8割前後の肯定率の回答であったことから、一定水準でのご理解とご協力を変わずいただくことができていると感じている。引き続き本校のめざす生徒像実現へ教育活動を継続していくとともに、生徒一人ひとりへの対応にも可能な限り注力していきたい。

・一方で、設問2「子どもは授業はわかりやすいと言っている。」の肯定率減少(73.4⇒68.2)は特に重く受け止めている。高校での学びが日々多様化してきているが、学習の土台となる素養や姿勢は、授業を通じて学び取っていく普遍的なものであると認識している。力を伸ばす授業を実践する中、生徒にとっては難しい・わからないと感じる数が増加したかもしれない。できなかったことができるようになる体験を高校生活で積み重ねてもらうため、引き続き丁寧に根気よく取り組みたい。

[教員] 回収率 100% (昨年度 98%)

・最も改善が望まれるのは昨年と同様、設問17「職員会議に至る各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している。」に関してである。昨年より肯定率は上がっている(47.9⇒50.0)が、職員会議が協議の場ではなく、決定した事柄の連絡や報告・説明の場となったので、そこに至るまでの会議が情報交換と課題検討の場としてうまく機能していなければならない。どの会議においても項目が多岐に渡り、意見を出しあう時間が十分に取れないのかも知れないが、「個々に確認すれば済む事柄には会議の時間を使わない」、「会議は意見を出し合って検討する場である」という意識を一人ひとりが持つことにより改善していきたい。

・事前および会議後の資料確認に関しては学習支援クラウドサービスを積極的に活用していきたい。活用にはストリーム画面を毎日(朝、昼、夕方)チェックすることを各々が日常業務として習慣化する必要がある。

・設問13「学校として、部活動の活性化について工夫している。」については、働き方改革の一環としても部活動指導員の活用が進みつつあるので、教員の業務として捉える意識が薄らいできているのかも知れないが、現状ではその大半に関して教員間の協力を必要としていることを忘れずに体制を改善していきたい。

・設問16「校則が、生徒の実態や人権尊重の立場から適切であるかについて随時検討している。」については、生徒指導提要の改訂に合わせて本校の生徒指導に関する教員研修を行ったことが肯定率の上昇(45.8⇒60.4)につながったと思われるが、今後さらに改善していきたい。

・設問20「この学校では、整理整頓が行き届いている。」(肯定率41.7%)については、現在教員は狭い机の上にICTパソコンとタブレット端末を置いて仕事をしている。机上に物を置けないので、どうしても周りに色々な荷物を置かざるを得ない状況が関係しているのかも知れない。今後、保健部や安全衛生委員会と連携して職場環境改善に努めたいが、最も重要なのは各々人の整理整頓の意識であることの自覚を持ちたい。

元されていく流れを理解してもらうことが改革を進めていくうえで重要な方法論となる。いいところで仕事を終えることで、仕事からプライベートに気持ちをシフトしていく、社員にも会社にもプラスに転じていることが多い。学校現場でも参考にしていきたい。

○キャリア教育について

・評価指標について、国公立大と難関私大、外国語大と一緒にしているが、ここは例え少ない人数でも分けて国公立大○人など明確にした方がよい。地域の中学校にも、はっきりした具体数があると良いアピールとなるのではないかと。

・探究的な学習活動を推進いただいている。「なりたい自分」の探究、ここが1番のベースであろう。「なりたい自分」を明確に持つことができた生徒がどのような行動へつながっていったのか、ここも追いかける必要がある。年齢を重ねても生き生きとしていることを期待する。

・人生においての目標が決して、「○○大学に行く」ではなく、卒業した生徒が生き生きしているのかどうか、そんな先輩がいることが緑風冠の魅力なのではないかと。

○部活動について

・大東市立の中学校では地域移行を始めているが、剣道部のみ移行ができた状況。大東市が更に1つでも2つでも取り組もうとしているので、中学校としても頑張って応援していきたいと感じている。高校でも、部活の効率化を進める上で内外での調整が必要だろう。お互い協力できる場所があればいいのではないかと。

・ただ、部活動をしてきたからこそ、普段の教育活動にプラスの影響を与えることができていた。○○大会で○○をめざす、そのためにはどのような手段があるのかなど、具体的な目標や戦略はクラス作りや集団作りにも活かしていると感じている。それを教員が手放すということは、1つの武器を失うことと同意だと感じる。

[第2回目 11月22日]

○生徒指導体制の推進について

・生徒たちがルールを作れるステージになると良いが、それについてはとても難しい。生徒にルール作りをさせられるには、教員は生徒にここまでルールを守らせようという土壌が必要で、生徒の大半が現行のルールを守っている落ち着いた状況が必須でありそれなくしてやろうとすると失敗する。

○人権尊重の教育について

・いじめ防止対策については、「いじめ防止対策推進法」に則って対策を講じていないことから事態が大きくなる事例が少ない。例えば、記録がない、会議がない、職員室の会話で終わっているなど。組織で対応することが基本で、教師の理屈でやっていると崩れる。何と言っても重要なのは初期対応。その事象に対してきちんと説明できるかは、その都度の記録の有無にかかっている。記録をつける習慣を徹底いただきたい。

・めざす学校像にある「豊かな人間性・創造性・社会性」といった大きな柱を育てたい。緑風冠を卒業して良かったと思える生徒をたくさん作って欲しい。それが学校の評価になっていく。

○校務の効率化について

・企業では「早く仕事の成果をあげる人」が能力のある人。教員の中でそのような人を例にするのはどうか。

[第3回 2月14日]

○キャリア教育について

・中期的目標の外部資格の受験者数の指標において、取り組んでいるすべての資格についての受験者数を指標としてはどうか。英検だけでなく、数検や漢検、ニュース検定にも取り組んでいるということなので、これらは企業などのスタートアップ時に必要となるスキルに繋がると思う。緑風冠で学ぶことは幅広いと外部の方々も感じるができるだろう。進路意識や自己肯定感を高める部分に繋がる部分なので、そういった感覚を大切にしてもらえればと思う。

・地域や先輩、あるいは特別ゲスト等を招き、直接の人生の先輩方から人生観について学ぶ機会があれば、より良くなっていくと思う。

・学力生活実態調査の状況を経年で見るときに、学校が掲げている目標はめざすことができると思う。チャレンジさせるかさせないかの判断も大事であるが、後押しできる取り組みを推進してほしい。そうすることで、「探究」における緑風冠モデルから「自分探し」、「なりたい自分を見つける」という流れがしっかり生まれると思う。

・できる範囲で卒業時に、「自分が望む進路に決定できたか」、「進路に満足できているか」のアンケートを取っていかれてはいいかがか。出口をしっかり見てあげることは教員へのアプローチとなっていくのではないかと。

・生徒の光っているものを前面に出す。これから光る部分がある場合はそこを光らせる。良いところを持っている生徒が一人でも多く増えてほしい。真面目に頑張っている生徒をしっかり輝かせてほしい。

○働き方改革について

・月80時間以上の超過勤務者は減少させるというレベルではなく、0にしていかなければならない。

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R4年度値]	自己評価
1 確かな学力・夢を実現する教育活動	<p>(1) 組織的に授業力向上と改善に取組み「主体的、対話的で深い学び」の授業を実践する。</p> <p>ア 「学び合い、学び続ける生徒の育成」のため、全教員で「主体的、対話的で深い学び」の授業を行う。</p>	<p>ア・各教科で探究的な活動を授業に取り入れる。</p>	<p>ア・探究的な活動、観点別評価に関する教員研修を年2回以上実施する。[2回]。</p>	<p>ア・観点別評価については、1学期の職員会議ごとに各教科より報告会を実施(5回)、7月には外部講師を招き教員研修を実施。探究的な活動については、12月に教員研修を実施。</p>
	<p>イ 授業満足度の向上と、わかりやすい授業のため、全教員でICTを活用した授業を積極的に取り入れる。</p>	<p>イ 定期的な相互授業見学及びICTを活用した授業力向上の研修や研究授業を実施する。</p>	<p>イ・相互授業見学を年2回[2回]、1人1台端末活用等の研修を1回以上[1回]、研究授業を1回以上[未実施]実施する。</p>	<p>(○)</p> <p>・第1回目 3.34 (△)</p> <p>・第2回目 3.25 (△)</p> <p>イ・相互授業見学1回目を6月(19人参加)、2回目は11月(5人参加)に実施。参加率57.1%。(○)</p> <p>1人1台端末活用の研修は1月に実施。(○)</p> <p>研究授業は国語2回、理科1回、英語1回、計4回実施。(◎)</p> <p>ICTを活用し、生徒の深い学びのため、対話させ、考えを共有させる授業ができるようになってきている。</p>
	<p>(3) 体系的なキャリア教育の推進により、大学進学希望者の目標・夢を実現させる。</p>	<p>・「総合的な探究の時間」において進路や生き方について考える探究的な学習活動を行い、早期に、生徒の確かな進路目標決定と意識醸成に取り組む。</p> <p>・高大・専門学校連携制度を利用した授業や講座を行い、生徒の進路意識を向上させる。</p> <p>・3つの専門コースがめざす「確かな学力」を具現化し、学習支援ツールも活用しながら、個別最適な学びを推進する。</p>	<p>・生徒「1人1台端末を効果的に活用している」肯定率85%以上[81.9%][新]</p> <p>・緑風冠高校の特色となる系統的な指導計画の作成と実施を図るべく「総合的な探究の時間」のフォーマットを作成する。</p> <p>・連携大学・専門学校との連携による取組みを推進し、講座・授業を実施する。5講座[1講座]</p> <p>・学力生活実態調査において、学習到達ゾーンを入学時と比較して3年時に1ランクアップさせる。その結果として以下の指標を定める。</p> <p>国公立・関関同立・産近甲龍・外(関西・京都)合格者数15人[11人]</p> <p>摂神追桃合格者数70人[67人]</p> <p>看護系大学合格者数8人[5人]</p> <p>芸術系大学合格者数8人[5人]</p>	<p>・88.9%(◎)</p> <p>・12月の教員研修において、ここ2年間の取組みと今後の展開について全員で共有を行い、フォーマットの基礎が出来上がった。次年度は緑風冠モデルとして完成をめざす。(○)</p> <p>・大阪成蹊大学国際観光学部教授による講座2講座、大阪保健福祉専門学校による看護実習講話2講座、計4講座開設。(△)</p> <p>・今年度1ランクアップは実現できず。(△)</p> <p>35人(◎)</p> <p>63人(△)</p> <p>4人(△)</p> <p>2人(△)</p>
	<p>(4) 様々な検定試験を実施し進路意識を向上させる。</p> <p>イ 英検、漢検、数検など様々な資格試験を1年次より実施し、進路意識と自己肯定感の向上に取り組む。</p>	<p>イ 英語教育の推進を図るとともに、各種検定を実施し、生徒の進路意識の醸成を図る。</p>	<p>イ・英検、数検、漢検等の各種検定を実施し前年度より増とする。[118人]</p> <p>・英検の合格率を向上させる。</p> <p>[2級9.5% 準2級43.2% 3級50.0%]</p>	<p>イ・英検97人、数検8人、漢検23名、計128人受験。(○)</p> <p>・2級11.1%、準2級34.6%、3級44.4%(○)</p>

## 府立緑風冠高等学校

2 地域・保護者から信頼される学校づくり	<p>(1) 生徒の規範意識を高め、学校生活に主体的に取り組む姿勢を醸成する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員全員による生徒指導体制を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が学校の指導規則を守る項目の高い肯定率を維持する。[96.2%]</li> <li>・教員への新指標として、「私はルールやマナーの指導について、違反の現場に遭遇した際は学年を問わず声かけを行い、その都度注意し指導している」を設け、肯定率70%以上をめざす。[新]</li> <li>・生徒指導体制推進のための校内研修を実施する。[新]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・95.2% (○)</li> <li>・87.5% (◎)</li> </ul>
	<p>(2) 安心できる人間関係を構築するため特別活動(行事、部活動等)を充実させ、学校満足度を向上させる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動を推進し、地域とも連携し学校行事を更に活性化させる。</li> <li>・地域や中学校、部活動大阪モデルにおいてのペアリング校と連携し、部活動指導員を有効に活用した部活動を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登校時遅刻を前年度より15%減少させる。[3056件]</li> <li>・クラス活動や学校行事参加へ積極的に参加する肯定率85%以上を維持する。[89.5%]</li> <li>・保護者の学校満足度85%以上を維持する。[87.3%]</li> <li>・部活動加入率65%以上。[57%]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・10月に外部講師を招きいじめについての人権研修を行った際、それに引き続き生指部長を講師として校内研修を実施した。生徒指導提要の改定にも触れ、これまでの指導方法を振り返りながら、今後の方向性を確認することができた。(◎)</li> <li>・3273件(+7.1%) (△)</li> <li>・92.0% (◎)</li> <li>・87.5% (○)</li> <li>・1年45%、2年45%、3年52%、全体47% (△)</li> <li>10月より剣道部が部活動指導員の引率・指導により、地域の3中学と合同練習を開始。</li> </ul>
	<p>(3) 保護者及び地域との連携した活動を推進するとともに、学校ホームページ等により学校の情報発信の更なる充実を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者、地域への情報発信を充実する。</li> <li>・学校広報に生徒の活躍の場を設ける。</li> <li>・地域等のイベントへの生徒の参加機会を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページ、ブログ等を積極的に更新し、保護者の学校情報における項目の肯定率を65%以上にする。[58.9%]</li> <li>・学校説明会等に生徒を参加させ、活躍の場を提供する。5回以上〔5回〕</li> <li>・地域交流への参加生徒数90人以上とする。[中学訪問、地域連携等への参加 90人]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・49.1% (△)</li> <li>・7月より本校ホームページと学校案内パンフレットをを完全リニューアル。</li> <li>・進学フェア、大東市学校説明会、四條畷市学校説明会、本校での説明会(11/11、12/16)に参加。回を追うごとに生徒のプレゼン能力が向上しており、中学生やその保護者からも好評である。(◎)</li> <li>・中学校訪問に1年生約90人が参加。1・2年生全員参加の総合的な探究の時間における取組「職業インタビュー」を通じて地域の企業や公共団体との連携が加速した。(◎)</li> </ul>

## 府立緑風冠高等学校

<p>3 人権尊重の教育と、「ともに学びともに育つ」教育の実践</p>	<p>(1) 共生推進教室生徒の自立を支援する。</p> <p>(2) 教職員の人権教育等の研修を定期的実施するとともに、生徒への人権教育を推進する。</p>	<p>ア 生徒全員の進路実現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の人権研修（人権、教育相談、障がい者理解等）と生徒の人権教育を推進する。</li> <li>・要支援生徒について支援教育コーディネーター、教育相談委員会、担任、SC、SSWによる連携した支援を行う。</li> </ul>	<p>ア 共生推進教室3年生の進路実現 100%の維持。[100%]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員対象の人権研修を2回以上実施する。[2回]</li> <li>・生徒の人権に関する肯定率 80%以上を維持する。[84.0%]</li> <li>・生徒の教育相談通信など、教育相談が身近になるように取組み、この項目における満足度 85%以上を維持する。[87.1%]</li> </ul>	<p>100% (○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目は「いじめ重大事案の予防のために」をテーマに、2回目は「同和問題」をテーマに野崎高校と合同で、どちらも外部講師を招き実施。(○)</li> <li>・92.7% (◎)</li> <li>・86.7% (○)</li> </ul>
<p>4 校務の効率化と働き方改革の推進</p>	<p>(1) 各組織のリーダーのマネジメント能力を向上させ、学校経営に教職員が参画するPDCAサイクルを推進する。</p> <p>(2) 校内体制並びに業務の見直しと改善・効率化を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー養成の外部研修等に教員を積極的に参加させる。</li> <li>・職員会議に至る各種会議を情報交換と課題検討の場として有効に機能させる。</li> <li>・新たに新分掌「情報総務部」を設け、各分掌の業務を見直し、校務分掌の再編・整備を行う。</li> <li>・ICTを活用した更なる業務の効率化を図り、管理職等による面談や声かけなどにより、時間外勤務者の削減に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー養成の外部研修等に2人以上の教員を参加させる。[新]</li> <li>・教職員「職員会議に至る各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している」を向上させる。[47.9%] [新]</li> <li>・教職員「各分掌・学年間の連携が円滑に行われ有機的に機能している」を向上させる。[50.0%] [新]</li> <li>・80時間/月以上の超過勤務者を前年比 20%減少させる。[21件]</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1人1台端末活用や授業作り、共生推進、キャリア教育の推進を目的に計4名の教員をリーダー養成のための研修に参加させた。(◎)</li> <li>・50.0% (○)</li> <li>・60.4% (○)</li> <li>・2月末現在 18件 -14% (○)</li> <li>・今年度は生徒の安全・安心及び教員の働き方改革の観点から学校行事の見直しを行い、校外自然科学学習（冬季飯盛山登山）を取りやめた。次年度以降についても、今の体制では安全で安心な開催は難しいと判断し、行事そのものを廃止することとした。</li> </ul>